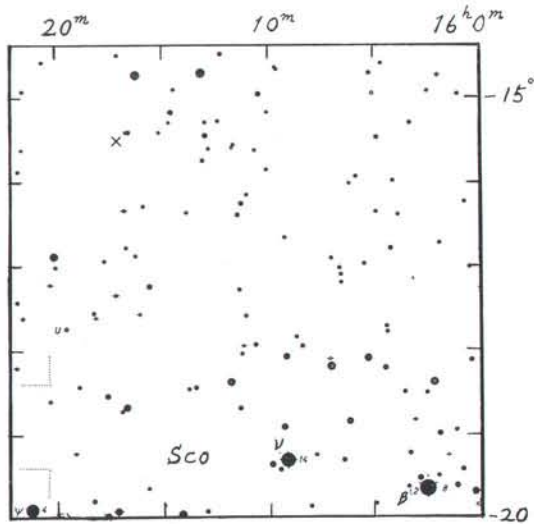
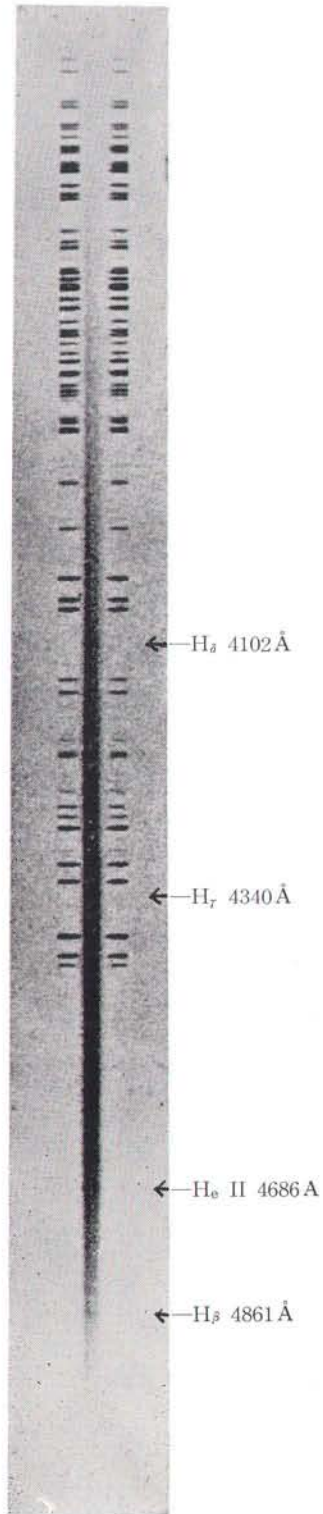


Sco X-1 のスペクトル写真

矢印で示した所に輝線があるのが原板ではよくわかる。吸収線は全く認められず、又スペクトルは紫外域にまでのびている。これはオールド・ノバといわれているもののスペクトルに良くにている。この写真は岡山の188センチ望遠鏡につけたカセグレン水晶分光器でうつされた。分散は4000Å 附近で90Å/mm である。



Sco X-1 はさそり座の北部の、比較的輝星の少ない場所にある。この図では左上の × 印がそれで、× 印の右上に、左右にくつついて二つならんだ星は、表紙写真の右上の二つの星である。

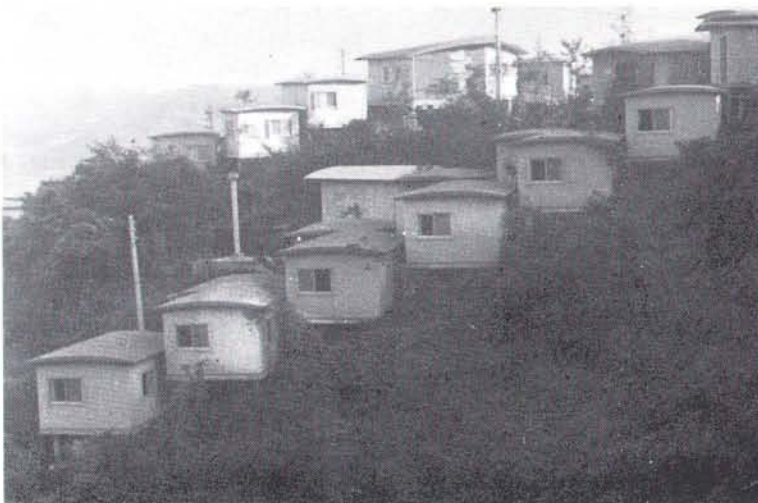
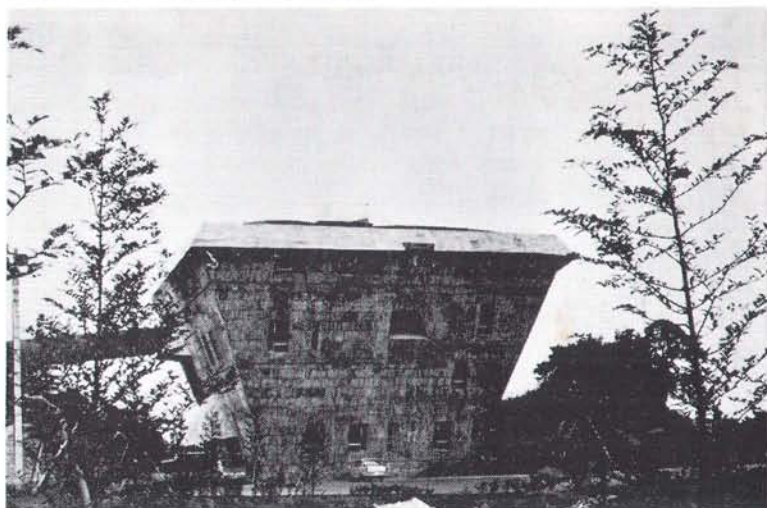


今夏のSAM勉強会より



←今夏のSAM勉強会は、別項記事の通り、八王子・野猿峠の大学セミナーハウスで7月28日より行われた。開会に当り挨拶をされる鍋木先生。

この施設は国公立の大学→の共同出資で1965年11月に開設されたもの。写真は中央本館で、主にこの建物で講演が行われた。この施設にはこのような形の建築物が多く、まるでLinear Programmingの教科書から抜け出したような形だ。設計者もそれを意識して建てたのかも知れない。



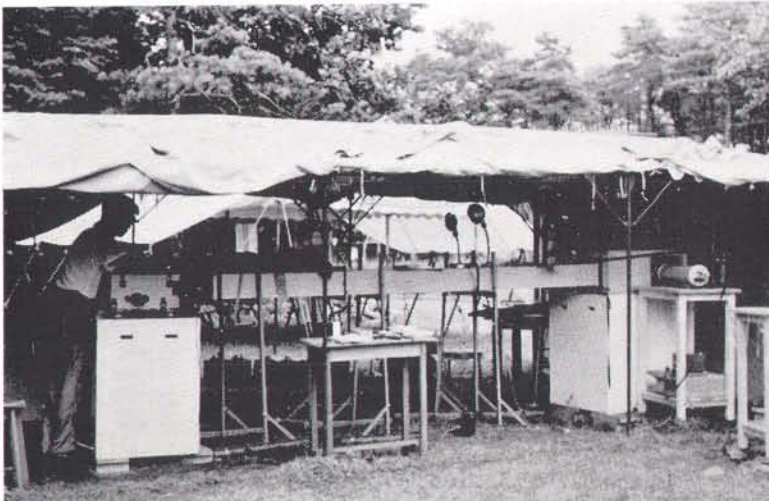
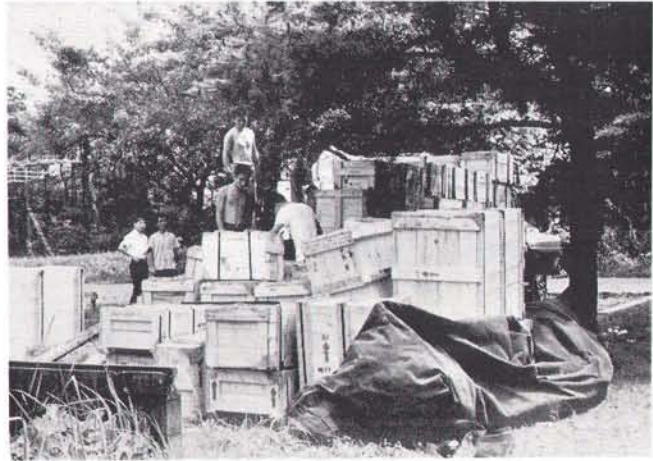
←セミナーハウスの宿舎群。特製の犬小屋のような箱に2人が泊れる。中央上の模様の書いてある少し大きな箱では、10人くらいのセミナーができる。宿舎にはベッド、机、椅子、扇風機、ロッカー、蛍光灯スタンド、それに聖書がそなえてある。

東京天文台でのスナップ



←東京天文台を訪問された Patrik Moore 氏。眼光するどく威容があるが、身なりはきわめて質素で、人柄がしのばれる。電子計算機室で撮影。案内者（左）は斎藤国治氏。（せんさあ欄参照）

東京天文台観測隊の荷物搬出風景。ここのあと荷物は8月30日、沖島丸でペルーのカヤオ港にむけて送られた。



←フラッシュスペクトル班の観測準備風景。（見えているのは平山(淳)氏）